

財政指数(平成23年度決算)

経常収支比率	86.1 (85.3)
健全化判断比率	
実質赤字比率	—
連結実質赤字比率	—
実質公債費比率	11.6 (12.6)
将来負担比率	51.0 (55.1)
資金不足比率	—

※表中の() 数値は、秋田県内12町村の平均です。
 ※表中の「—」は、赤字、資金不足がないことを示しています。

【用語の解説】

【経常収支比率】

経常収支比率は、地方税や地方交付税、地方譲与税を中心とする一般財源収入の中で、人件費や扶助費、公債費等の義務的に支払わなければならない経費がどの程度の割合を占めているかを示す指標で、この数値が高くなるほど財政が硬直化していることとなります。町村は75%以下が望ましいとされています。

【実質公債費比率】

実質公債費比率は、公債費(借入返済金)の財政負担の程度を示す指標です。この比率が18%以上になると地方債の発行に県知事の許可が必要となり、25%以上になると一部の地方債の発行が制限されます。

【将来負担比率】

将来、一般会計等(普通会計)で負担することが見込まれる金額(地方債の残高、退職手当の負担見込など)の標準財政規模(※)に対する割合を示す比率です。350%を下回っていれば適正といえます。
 ※標準財政規模…自治体が標準的な行政サービスを提供するために必要な一般財源の規模をあらわしたもので、町税や普通交付税などが主なものです。

健全化判断比率・資金不足比率

「地方自治体の財政の健全化に関する法律」において、地方自治体の財政の健全性に関する比率を公表することになっています。平成23年度決算に基づく八峰町の健全化判断比率及び資金不足比率は、いずれも国が示す財政健全域の範囲内にあります。

基金残高(平成23年度末)

財政調整基金	18億6,595万4千円
減債基金	5,119万6千円
合併町村振興基金	6億3,164万8千円
地域福祉基金	1億1,168万7千円
奨学資金貸付基金	1億4,274万8千円
雇用創出基金	4,614万円
観光振興基金	2,739万3千円
ふるさと八峰応援基金	346万4千円
高額療養費貸付基金	335万円
高額介護サービス費等貸付基金	281万7千円
自然再生基金	710万4千円
国民健康保険事業基金	5千円
介護給付費準備基金	6,640万5千円
簡易水道基金	6,528万8千円
農業集落排水事業債償還基金	5,199万3千円
合計	30億7,719万2千円

町債残高(平成23年度末)

一般会計	77億542万6千円
簡易水道特別会計	12億1,242万6千円
公共下水道事業特別会計	25億1,725万6千円
農業集落排水事業特別会計	7億5,294万5千円
漁業集落排水事業特別会計	4億799万5千円
合併処理浄化槽事業特別会計	940万円
合計	126億544万8千円

平成23年度末における八峰町の借入金(町債)の残高です。借入金は、将来にわたって計画的に返済していきます。

特別会計の決算収支

平成23年度において八峰町には10特別会計がありましたが、いずれの会計も黒字決算となりました。

特別会計	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業勘定特別会計	11億8,967万9千円	11億1,821万5千円	7,146万4千円
介護保険事業勘定特別会計	10億3,305万円	9億7,542万6千円	5,762万4千円
後期高齢者医療特別会計	7,878万5千円	7,861万4千円	17万1千円
沢目財産区特別会計	743万6千円	480万円	263万6千円
町営簡易水道事業特別会計	4億7,934万3千円	4億5,415万8千円	2,518万5千円
公共下水道事業特別会計	3億8,054万2千円	3億7,108万5千円	945万7千円
農業集落排水事業特別会計	1億931万9千円	1億640万8千円	291万1千円
漁業集落排水事業特別会計	5,297万8千円	5,033万9千円	263万9千円
合併処理浄化槽事業特別会計	1,232万円	1,200万5千円	31万5千円
町営診療所特別会計	8,891万3千円	6,478万6千円	2,412万7千円
合計	34億3,236万5千円	32億3,583万6千円	1億9,652万9千円

平成23年度

八峰町の財政状況についてお知らせします

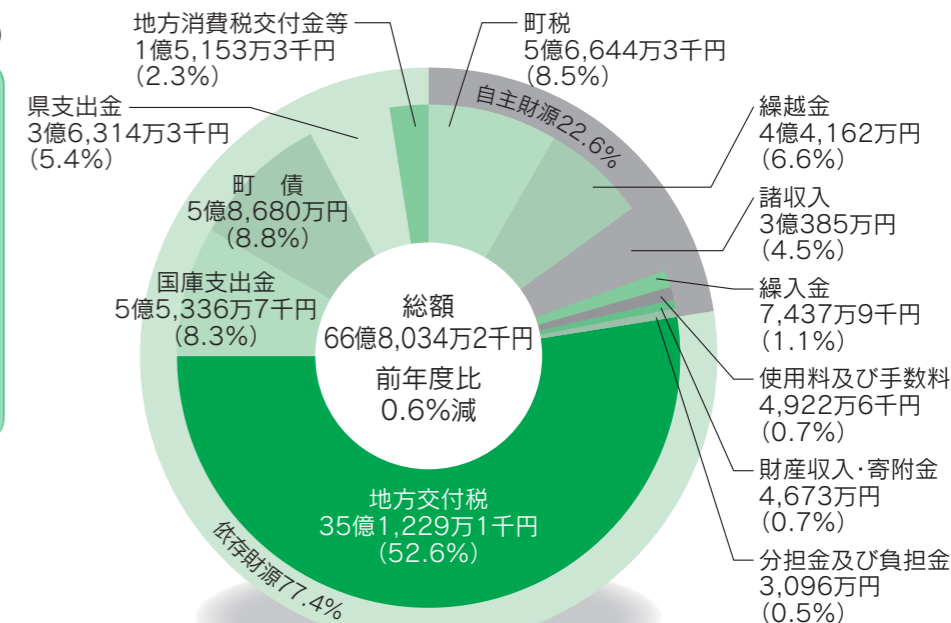
平成23年度の一般会計の決算額は、前年度と比べると歳入は0.6%、歳出は0.3%それぞれ減となっています。その主な内容ですが、歳入については、平成22年度からの繰越金や町有林売却等の財産収入が増えたものの、経済対策関連の交付金縮減などにより国庫支出金が減となったことや、町債の借入を抑制したことから、歳入全体で減となっています。歳出についても、道路改良等の繰越事業があった土木費が大きく伸びましたが、難視聴対策(光ケーブル敷設)事業が終了した総務費、林道整備が終了した農林水産業費に加え、諸支出金(積立金等)が減となったことから歳出全体でも減となりました。

【決算収支の状況】(千円)

歳入総額 …66億8,034万2千円①
 歳出総額 …62億5,905万7千円②
 差引(①-②) …4億2,128万5千円③
 翌年度に繰り越すべき財源 ……401万7千円④
 実質収支(③-④) …4億1,726万8千円⑤

※実質収支:実質的な翌年度(平成24年度)への繰越金です。

■一般会計(歳入)



■一般会計(歳出)

